

令和3年度 第1回総合教育会議 資料

天明校区の義務教育学校について



川口小学校



天明中学校



奥古閑小学校



中緑小学校



銭塘小学校



南区キャラクター

天明校区の小中学校の現状と地域住民からの要望

(1) 天明校区の小中学校の現状（令和3年（2021年）5月1日現在）

中 緑 小	48名	5学級	※1
銭 塘 小	110名	7学級	
奥古閑小	130名	7学級	
川 口 小	64名	6学級	
天 明 中	166名	7学級	
合 計	518名	32学級	

※1…学級数は通常学級と特別支援学級の合計
(川口小は通常学級のみ)

小規模のよさを活かした支援	教育活動の制約
・先生の目が児童一人一人によく届き、学習や生活面においてきめ細かな支援ができる ・児童相互の人間関係が深まりやすく、学年間の交流も生まれやすい	・複式学級の授業では、対話的な学びの時間が不足する ・クラス替えがなく人間関係が固定化しやすい ・切磋琢磨する機会が少ない ・演奏会やスポーツ大会など多人数の活動の実施が難しく、児童の多様なニーズに応えることができない



教育環境の整備と、教育の質の向上を目指す

(2) 地域住民からの要望

- ① 令和2年（2020年）11月より、天明校区における魅力ある学校づくりに向けた提案について、天明校区自治協議会、各小中学校PTA役員、各小中学校保護者に対し説明・意見交換を行い、令和3年（2021年）5月21日、天明校区地域懇談会から施設一体型義務教育学校の設置について要望を受けた
- ② 令和3年（2021年）8月、天明校区新旧自治協議会会長、新旧小中学校PTA会長を構成メンバーとした新校準備会を開催予定

天明校区地域懇談会からの要望書の内容

- 1 小中一貫教育に適した教育環境の整備
- 2 特色あるカリキュラム、教育課程の編成
- 3 各種災害による学校教育活動への影響の抑制及び地域住民のための避難所機能を有した施設整備
- 4 通学支援（スクールバス）
- 5 地域住民の意見を取り入れた閉校後の校舎の利活用とまちづくり

1 小中一貫教育に適した教育環境の整備

(1) 地域住民からの声

「児童生徒が安全にのびのびと活動できる規模と機能を確保した校舎、グラウンド等を整備してほしい」

(2) 義務教育学校設置案

- ① 設置形態：天明校区の4小学校（奥古閑小学校、銭塘小学校、川口小学校、中緑小学校）と天明中学校を一体化し、天明中学校の敷地内に新校舎設置を検討
- ② 開校年度：令和9年度（2027年度）の開校を目指す
- ③ 学校規模：1学年 2学級
9学年×2学級の18学級と、特別支援学級を設置を検討



(3) 義務教育学校の特色

義務教育学校の次のようなメリットを最大限に活かして、特色ある教育の実践や研究を行い、その成果を市内の小中学校に向けて発信する

- ① 教育課程編成の自由度が高いため、習熟度別学習や教科担任制の授業を取り入れやすいことを活かし、児童生徒を多面的にとらえ、つまずきの解消に対応し、児童生徒の自ら学ぶ意欲の向上につなげる教育ができる
- ② 小中学校が一体化した教職員組織であるため、児童・生徒指導に関する情報を常日頃から共有し、児童生徒の安心感につながる、よりきめ細かな指導を行うことができる
- ③ 児童生徒が1つの学校で一緒に教育を受けることで、「異学年交流」が日常的に行われ、それにより児童生徒の自己肯定感や自己有用感が高まり、将来の目標や夢の実現に向かって自信を持って取り組んでいくことができる

2 特色あるカリキュラム、教育課程の編成

(1) 教育の基本的な考え方

特に重視する教育と育てたい資質・能力

主体的に考え
行動する力を育む教育

幅広い選択肢の中から、自ら考え、選択することを通して、自らの生き方を自身で見つけ、学びに向かう力を育てる。

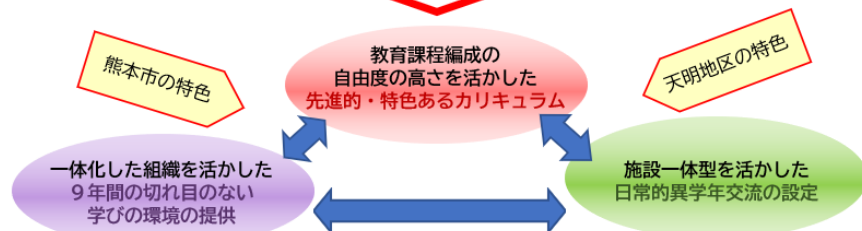
最適な
教育環境の整備

地域の伝統文化や芸術、新しいものを創り出す体験や自然体験活動を通して、新たな価値を創造する力や表現力を育てる。
安心安全な学校づくりを推進する。

これらを支えるために重視する取組

いのちを大切に心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応	確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育	教職員が子どもと向き合うための体制の整備	安心安全な教育環境の構築
--------------------------------	-----------------------	----------------------	--------------

施設一体型義務教育学校の特徴を活用



(2) 地域住民からの声

「各小学校の特色ある教育課程・行事を、新設の学校でも、ぜひ継続してもらいたい」

「学力向上に特化した取り組みがあると、天明校区に子どもを呼び込めるのではないかな」

先進的・特色あるカリキュラム

《イメージ》

前期課程						後期課程		
1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
学級担任制			一部教科担任制			教科担任制		
学びの基礎・基本					学びの充実		学びの向上・発展	

ふるさと科（仮称）
（年間70時間程度）
生活・国語・体育・図工・理科・社会等の一部と総合的な学習の時間の一部

9年間の一貫した外国語活動と外国語

体験的・発見的活動 主体的活用、表現活動 主体的探究と情報発信

「主体的・対話的で深い学び」を意識した各教科の授業実践により、新しい時代に必要となる資質・能力を育む。ふるさと科（仮称）を中心にした教科横断的な視点からのカリキュラムを編成する。改めてふるさとを誇りに思い、ふるさとのよさを発信していく地域の特色を明確にした取組を行う。このことにより、地域の活性化を担う人材を育成したり、校区の魅力化を図ったりすることができる。

9年間の切れ目のない
学びの環境の提供

《イメージ》

- 全ての教職員が連携し、教えることに加え、子ども一人ひとりの学びが深まるようコーディネートする役割を担うことを意識した授業づくり。
- 生徒指導の三機能を生かした授業づくり。
- 異校種の教員が連携し理解し合う場面が増え、協力関係が構築され、一人ひとりのよさを伸ばす授業づくり。

- <取組例>
- ・相互乗り入れ授業
 - ・地域防災訓練
 - ・地域清掃活動
 - ・タブレットを活用した連絡体制づくり



日常的異学年交流の設定

《イメージ》

- 異学年で学ぶことが、新しい気づきや既習事項の振り返り、学習意欲の向上につながる。
- 児童の中学校生活に対する不安感の軽減により、小学校から中学校への移行がスムーズに行われ、学校段階間のギャップの解消につながる。
- 幅広い交流により、多様な人間関係を構築できる。

<取組例>

- ・関連単元による合同授業
- ・児童生徒会活動
- ・児童生徒が運営する全校集会
- ・縦割り掃除
- ・交流ランチ
- ・部活動での交流



3 各種災害による学校教育活動への影響の抑制及び避難所機能を有した施設整備

(1) 地域住民からの声

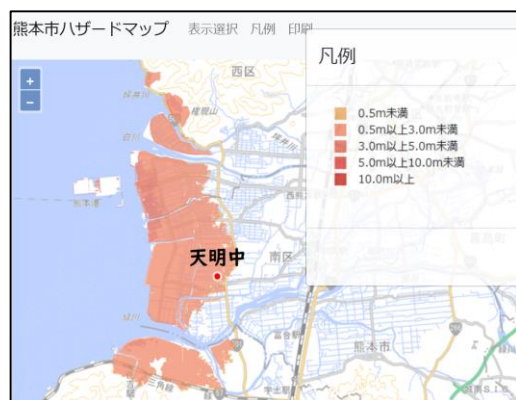
「令和2年（2020年）9月4日の台風10号接近の際には、天明校区の学校は避難所設置とはならなかった」

「川が近く、氾濫が心配であるため、地域住民が避難できる3階建て以上の建物を造ってほしい」

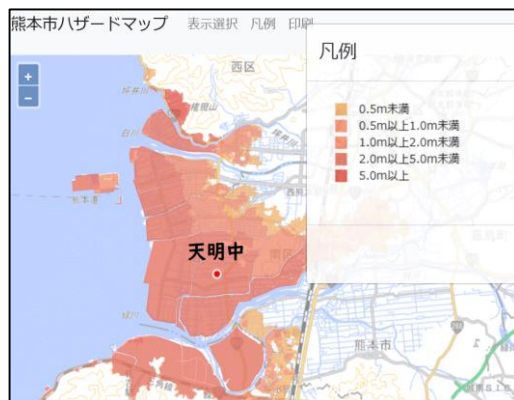
(2) 天明校区の現状

① ハザードマップ（2021.4.1）による、天明中周辺に発生する自然災害の想定規模

津波 0.5m～3.0m



高潮 2.0m～5.0m



洪水 0.5m～3.0m



○今後、高潮の想定最大規模については、熊本県から公表される予定

② 市街化調整区域における建築行為

○天明中学校は市街化調整区域内にある

○市街化調整区域で建築行為を行う場合、都市計画法第34条の2又は法第43条第3項の規定により協議が必要になる

○市街化調整区域では原則として、建ぺい率40%、容積率80%、外壁後退1m、建築物の高さ10mの建築形態制限がある

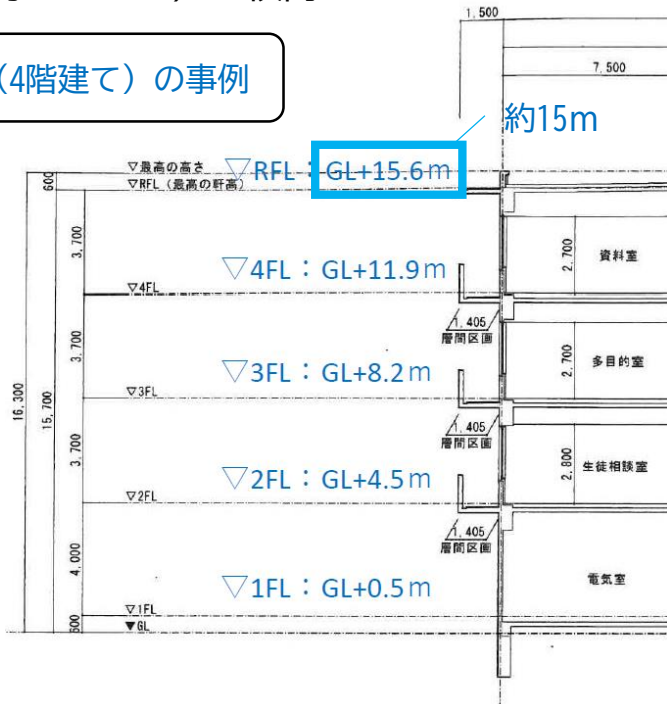


3 各種災害による学校教育活動への影響の抑制及び避難所機能を有した施設整備

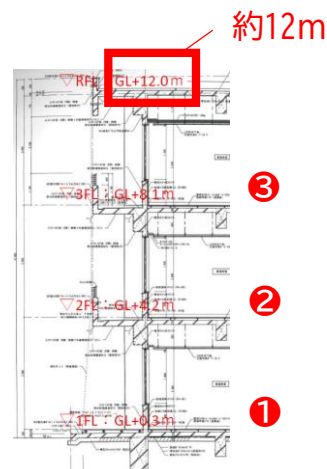
(3) 義務教育学校の校舎高さ・避難所機能について

- ① 地域防災に活かすという観点から、想定される災害規模に耐えうるよう、校舎の高さは3～4階建て程度の校舎（約12～15m）を検討している

東野中（4階建て）の事例



龍田西小（3階建て）の事例



- ② 避難所機能を有した施設の設備

非常用発電装置 多機能（バリアフリー）トイレ 防災倉庫 防災井戸
地域住民の校舎屋上への避難を想定した外階段 貯水機能付給水管 等

(4) 危機管理防災総室と南区、教育委員会、大学有識者、地域住民との連携

危機管理防災総室と南区、教育委員会、大学有識者や地域住民が連携を図り、自然災害からの垂直避難の方法等について協議する場が、今年度（2021年度）後半から、地元住民にもアンケートを取り、1年半ほどをかけて設けられる予定

4 通学支援（スクールバス）

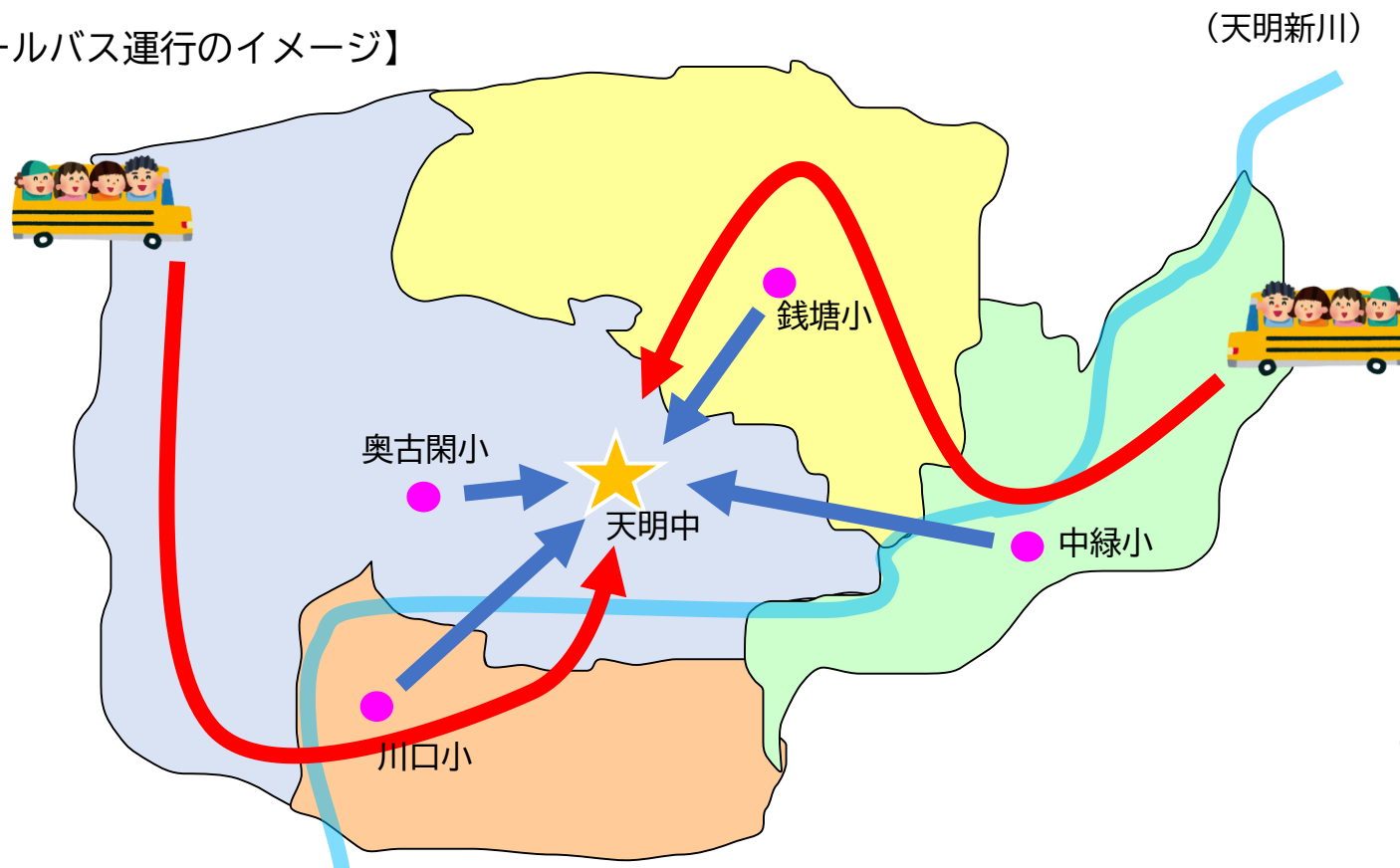
（１）地域住民からの声

「通学距離が長くなる児童については、スクールバス利用を許可してもらえようようにしていただきたい」
「距離で厳密に線引きするのではなく、柔軟な対応をお願いしたい」

（２）スクールバスの運行

- ① 小中学校の施設の一体化により、通学距離が遠くなってしまう児童が見込まれるため、スクールバスでの通学を支援する
- ② スクールバスは複数台の運行を想定し、施設一体型義務教育学校を設置する敷地内に安全に転回できるスペースと待機スペースを確保することを検討している

【スクールバス運行のイメージ】



5 地域住民の意見を取り入れた「閉校後の校舎の利活用」と「まちづくり」

(1) 地域住民からの声（「閉校後の校舎の利活用」について）

「閉校後の校舎の利活用に関しては、広く地域住民の意見を聞いてほしい」

(2) 旧松尾3校区の小学校閉校後の校舎の利活用について

旧松尾東、旧松尾西小学校については利活用を開始、旧松尾北小学校については利活用を検討中



ドローン操作講習施設（旧松尾東小）



地域包括支援センター分室（旧松尾東・西小）



マンガ収蔵・展示室（旧松尾西小）

(3) 天明4校区の小学校の校舎の利活用について

旧松尾3校区の課題

旧松尾3校区の閉校後の校舎の利活用では、検討時間の確保が課題であった

- 利活用に関する意見交換会の開始…平成29年（2017年）7月
- 閉校後の校舎の利活用開始 …令和 2年（2020年）4月

➡ 2年9ヵ月

天明校区の取り組み

天明校区の小学校閉校後の4小学校の校舎の利活用について、地域住民へのアンケート、民間事業者とのマーケットサウンディング等の早期実施を行う

- 利活用に関する意見交換会の開始 …令和 3年（2021年）8月
- 閉校後の校舎の利活用開始予定 …令和 9年（2027年）4月

➡ 5年8ヵ月



5 地域住民の意見を取り入れた「閉校後の校舎の利活用」と「まちづくり」

(4) 地域住民からの声（「まちづくり」について）

「天明校区は人が少なくなり、バスも来なくなったが、子どもには天明に残ってもらい、孫に学んでほしい」
「地域住民と行政が密に連携し、天明校区の活性化につながる方法を考えてほしい」
「天明にはコミュニティーセンターがないため、小学校跡地にできないか」
「小学校跡地を避難所として活用できないか」

(5) 学校施設の高機能化・多機能化と、公共交通機関との連携

- ① 「自然採光・採風の活用と省エネ設備を取り入れたエコスクール化」、「教職員の働く場としての機能向上」、「快適にICTを活用できる教室環境」といった、時代にふさわしい教育の場としての、学校施設の高機能化を検討する
- ② 学校施設とその近辺にある他の公共施設等（天明運動施設グラウンド、天明運動施設体育館、天明ホール等）との間で、施設の利用において相互に機能的に連携を図ることができるよう、学校施設の多機能化を検討する
- ③ スクールバスの運用に関し、公共交通機関（バス）との連携を含め検討する

【先進地の事例（まちづくりと一体化した施設の複合化）】

「東京都八王子市立いずみの森小中学校」令和2年（2020年）4月1日開校

○平成24年（2012年）より、小中一貫校いずみの森小中学校第六小学校第三中学校となった

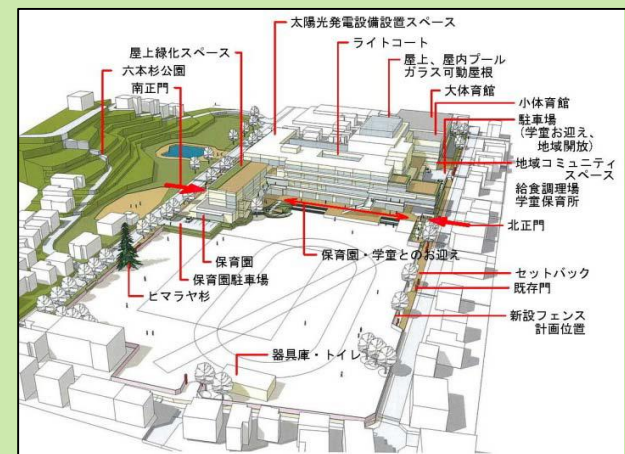
○平成27年（2015年）7月より、施設の老朽化が著しい状況であること、小中一貫校として運営されている状況から、中心市街地における、まちづくりと一体化した施設の複合化や、地域拠点化等の先行事例も視野に入れ、小中一貫校としては八王子市初となる「校舎一体型小中一貫校」の全面改築校として整備を行う計画の検討を進めた

○施設面積：約18,400㎡（複合施設含む 現状施設約11,300㎡）

○構造・階数：地上4階建て（鉄筋コンクリート＋鉄骨造）

○学級数：小学校（普通学級数23）中学校（普通学級数10）特別支援（小学校3学級 中学校4学級）
➢通級指導学級も開設されている
➢学級数は令和3年4月1日現在

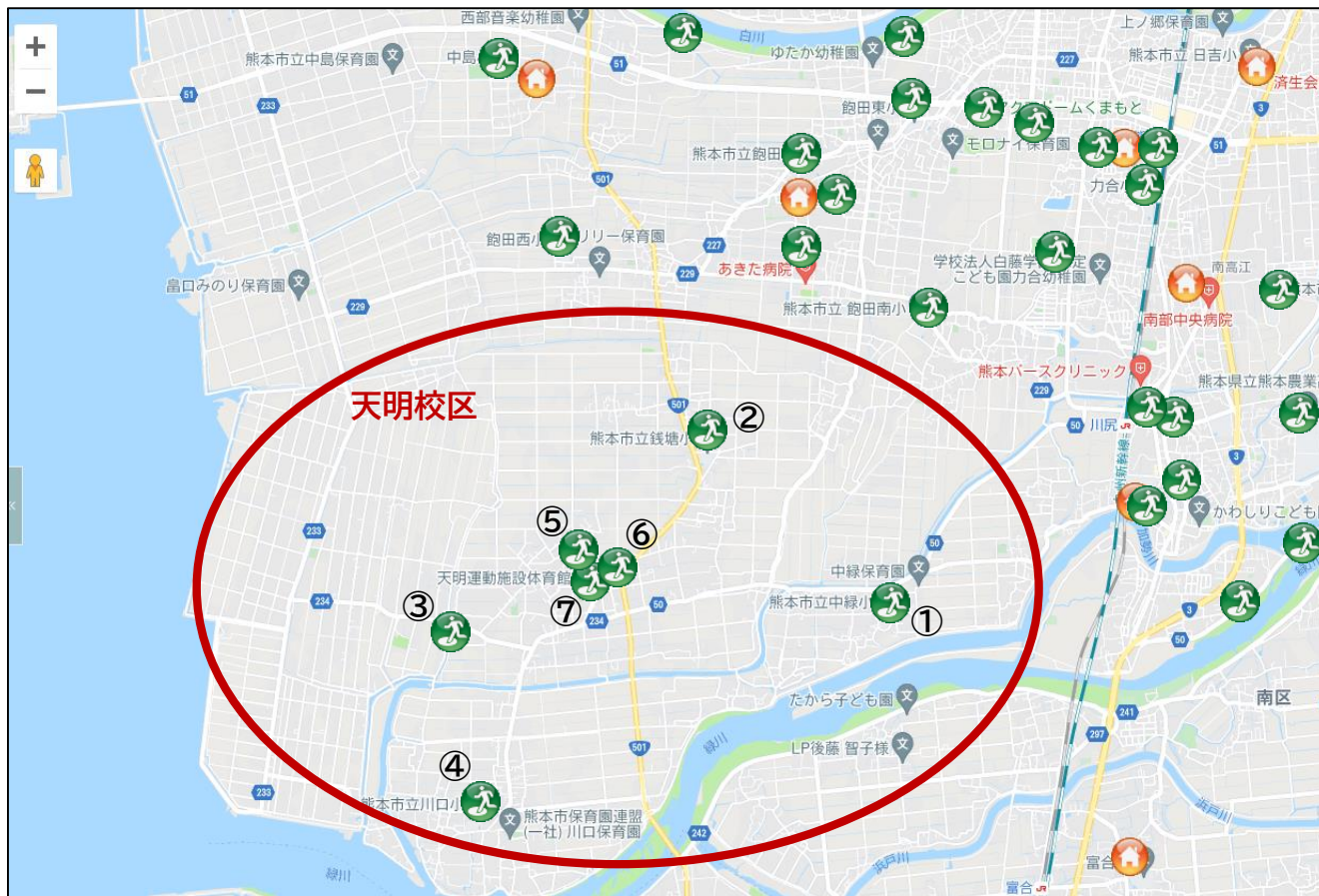
○複合施設：学童保育所（約400㎡）保育園（約500㎡）地域コミュニティスペース（約120㎡）



八王子市立いずみの森小中学校の校舎の様子

5 地域住民の意見を取り入れた「閉校後の校舎の利活用」と「まちづくり」

(6) 地域コミュニティセンターと避難所の設置状況



※3…指定緊急避難場所の7ヶ所

- ①中緑小学校
- ②銭塘小学校
- ③奥古閑小学校
- ④川口小学校
- ⑤天明中学校
- ⑥天明まちづくりセンター
- ⑦天明体育館



地域コミュニティセンター

天明校区には、地域コミュニティセンターは設置されていない



指定緊急避難場所※2

天明校区には、指定緊急避難所が7ヶ所※3指定されているが、広域避難場所※4は指定されていない

※2…災害時危険を回避するために一時的に避難する場所

※4…地震などによる火災が延焼拡大して地域全体が危険になったときに避難する場所



教育委員会事務局と関係部局との連携

天明校区施設一体型義務教育学校設置に向け、

市長事務部局と**教育委員会事務局**が密に連携を図る

災害発生時の危機管理体制

危機管理防災総室

地域の声を活かしたまちづくり

天明まちづくりセンター

天明校区施設一体型義務教育学校

地域拠点と生活拠点が連携した
暮らしやすい地域生活圏の形成

都市政策課 市街地整備課 開発指導課

地域の活性化につながる

小学校閉校後の校舎の利活用

南区総務企画課 資産マネジメント課